

(19) **日本国特許庁(JP)**

(12) **公開特許公報(A)**

(11)特許出願公開番号

特開2010-24767

(P2010-24767A)

(43) 公開日 平成22年2月4日(2010.2.4)

(51) Int.Cl.

E05B 15/02 (2006.01)

F I

E O 5 B 15/02

B

テーマコード (参考)

審査請求 未請求 請求項の数 4 O L (全 9 頁)

(21) 出願番号 特願2008-190000 (P2008-190000)

(22) 出願日 平成20年7月23日 (2008. 7. 23)

(71) 出願人 390037028

美和ロック株式会社

東京都港区芝3丁目1番12号

(74) 代理人 100067323

弁理士 西村 教光

(74) 代理人 100124268

弁理士 鈴木 典行

(72) 發明者 村上 龍司

東京都港区芝3丁目1番12号 美和ロックス株式会社内

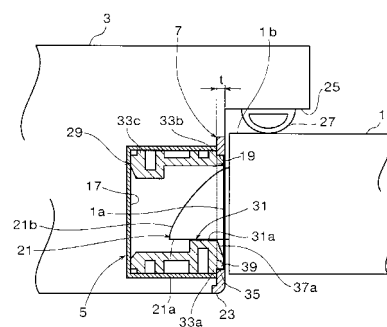
(54) 【発明の名称】 ストライク穴調整構造

(57) 【要約】

【課題】少ない部品で、扉のガタツキを容易に防止でき、しかも、見栄えがよく、スムーズな開扉が可能となるストライク穴調整構造を得る。

【解決手段】ストライク穴調整構造において、空間１７を有するトロコヤ５と、ストライク穴１９を有するとともにボルトガイド片２３が延設された金属製のストライク板７と、トロコヤ５に嵌入する角筒状に形成され軸線方向一端側における一対の側板部３３ａ、３３ｂと他端側における一対の側板部３３ｃ、３３ｄの板厚とがそれぞれ異なる厚みで形成された樹脂製の調整ブロック２９と、ストライク穴１９から表出する側板部３３ａ、３３ｂの端面に形成され調整ブロック２９の内側へ下る側板傾斜面３７ａと、ストライク穴１９のガイド片側の辺部に形成され側板傾斜面３７ａに接続して調整ブロック２９の内側へ下るストライク傾斜面３９とを設けた。

【選択図】 図1



【特許請求の範囲】**【請求項 1】**

一面が開口する四角箱状の空間を有し非開閉体に埋設されるトロヨケと、

前記トロヨケを覆って前記非開閉体に固定され前記空間を表出させる四角形のストライク穴を有するとともに一方の縦辺部にボルトガイド片が延設された金属製のストライク板と、

前記空間に嵌入する角筒状に形成され軸線方向一端側における平行な一对の側板部と軸線方向他端側における平行な一对の側板部の板厚とがそれぞれ異なる厚みで形成された樹脂製の調整ブロックと、

該調整ブロックの軸線方向両端の周縁に形成され前記ストライク穴の内周に嵌入するとともに前記ストライク板の厚みより小さい高さの段部と、

前記ストライク穴から表出する前記側板部の端面に形成され前記調整ブロックの内側へ下る側板傾斜面と、

前記ストライク穴の前記ガイド片側の辺部に形成され該側板傾斜面に接続して前記調整ブロックの内側へ下るストライク傾斜面と、

を具備したことを特徴とするストライク穴調整構造。

【請求項 2】

請求項 1 記載のストライク穴調整構造であって、

前記ストライク傾斜面が、前記ストライク穴の前記ガイド片側の辺部に突設された複数の爪片に形成され、

該爪片のそれぞれが、前記側板傾斜面に形成された複数の凹溝に嵌合されることを特徴とするストライク穴調整構造。

【請求項 3】

請求項 2 記載のストライク穴調整構造であって、

前記ストライク穴の前記爪片と反対側の対向する辺部に、前記凹溝に嵌合するブロック押さえ片が形成されたことを特徴とするストライク穴調整構造。

【請求項 4】

請求項 1 ~ 請求項 3 のいずれか 1 項記載のストライク穴調整構造であって、

前記側板傾斜面が、前記ストライク板の板厚の範囲内で形成されていることを特徴とするストライク穴調整構造。

【発明の詳細な説明】**【技術分野】****【0001】**

本発明は、扉開閉端から突出される錠ボルトの側部衝止位置が扉厚み方向に調整可能となるストライク穴調整構造に関する。

【背景技術】**【0002】**

扉は、開閉端から突出させたラッチボルト（デッドボルト兼用のものも含む）、デッドボルト、又はグレモン錠係止杆、或いはこれらを適宜組み合わせた施錠係止手段（以下、「錠ボルト」と言う。）を、扉開口枠又は両開き扉の他方の扉（以下、「非開閉体」と言う。）に係止して閉扉、施錠を可能とする。錠ボルトは、扉開閉端から突出され、非開閉体に固定したストライク板の開口穴であるストライク穴に進入することで、錠ボルト側部がストライク穴の衝止縁に当接して扉を開放不能に施錠する。

【0003】

この種の施錠構造では、扉開口枠と扉との建て付けや、施錠装置の施工・製造誤差により、錠ボルトと衝止縁との間に隙間が生じ、その結果、風や振動によって扉にガタツキの生じる場合がある。このような不具合を解消したものに、例えば特許文献 1 に開示される調整式ストライクがある。この調整式ストライクは、調整用のネジをドライバ等の工具で回すだけで、錠ボルトに対する係合部（衝止縁）を有する内ケースの水平方向の位置を容易に調整でき、扉のガタツキを無くすように構成されている。

10

20

30

40

50

【特許文献１】特開平１０－１０２８３９号公報

【発明の開示】

【発明が解決しようとする課題】

【０００４】

しかしながら、上記した従来の調整式ストライクに採用されているストライク穴調整機構は、部品点数が多く構造が複雑である問題があった。また、調整ネジの頭部に工具係着部を設け、その工具係着部を内ケース内に露出させているため、扉の開放時に、ストライク板を固定する螺合手段であるネジ、調整ネジ等の多数のネジ類が表出し、見栄えを低下させる問題があった。また、扉の開放時に工具係着部（調整部）が表出することで、調整ネジが悪戯されることもあった。さらに、工具係着部を悪意で操作して扉にガタツキを生じさせれば、不正な施錠解除も可能となり、防犯性を低下させる虞もあった。また、錠ボルト側部とストライク穴の衝止縁が金属同士で当接するため、開扉操作開始時、錠ボルトの後退に引き残しがあると、金属の角（エッジ）同士が引っ掛かり、スムーズな開扉が行えない問題もあった。

10

【０００５】

本発明は上記状況に鑑みてなされたもので、その目的は、少ない部品で、扉のガタツキを容易に防止でき、しかも、見栄えがよく、スムーズな開扉が可能となるストライク穴調整構造を提供することにある。

【課題を解決するための手段】

【０００６】

20

次に、上記の課題を解決するための手段を、実施の形態に対応する図面を参照して説明する。

本発明の請求項１記載のストライク穴調整構造は、一面が開口する四角箱状の空間１７を有し非開閉体に埋設されるトロヨケ５と、

前記トロヨケ５を覆って前記非開閉体に固定され前記空間を表出させる四角形のストライク穴１９を有するとともに一方の縦辺部にボルトガイド片２３が延設された金属製のストライク板７と、

前記空間１７に嵌入する角筒状に形成され軸線方向一端側における平行な一対の側板部３３ａ，３３ｂと軸線方向他端側における平行な一対の側板部３３ｃ，３３ｄの板厚とがそれぞれ異なる厚みで形成された樹脂製の調整ブロック２９と、

30

該調整ブロック２９の軸線方向両端の周縁に形成され前記ストライク穴１９の内周に嵌入するとともに前記ストライク板７の厚みｔより小さい高さｈの段部３５と、

前記ストライク穴１９から表出する前記側板部３３ａ，３３ｂの端面に形成され前記調整ブロック２９の内側へ下る側板傾斜面３７ａ（３７ｂ，３７ｃ，３７ｄ）と、

前記ストライク穴１９の前記ガイド片２３側の辺部に形成され該側板傾斜面３７ａ（３７ｂ，３７ｃ，３７ｄ）に接続して前記調整ブロック２９の内側へ下るストライク傾斜面３９と、

を具備したことを特徴とする。

【０００７】

このストライク穴調整構造では、トロヨケ５、ストライク板７、調整ブロック２９の少ない部品で構成され、調整ブロック２９がトロヨケ５に姿勢を変えて入れ替えられることで、錠ボルト２１の衝止面３１ａ，３１ｂ，３１ｃ，３１ｄとなる側板部３３ａ，３３ｂ，３３ｃ，３３ｄの内面位置が種々に変位可能となる。また、開扉時には、錠ボルト２１が樹脂製調整ブロック２９の側板傾斜面３７ａ，３７ｂ，３７ｃ，３７ｄに当たった後、ストライク傾斜面３９に移り移る。つまり、ボルト通過道の最初は異種材料同士の接触となる。

40

【０００８】

請求項２記載のストライク穴調整構造は、請求項１記載のストライク穴調整構造であって、

前記ストライク傾斜面３９が、前記ストライク穴１９の前記ガイド片側の辺部１９ａに

50

突設された複数の爪片 4 1 , 4 1 に形成され、

該爪片 4 1 , 4 1 のそれぞれが、前記側板傾斜面 3 7 a , 3 7 b , 3 7 c , 3 7 d に形成された複数の凹溝 4 3 , 4 3 に嵌合されることを特徴とする。

【 0 0 0 9 】

このストライク穴調整構造では、開扉時、錠ボルト 2 1 が調整ブロック 2 9 の内方から退出する際、側板傾斜面 3 7 a , 3 7 b , 3 7 c , 3 7 d 、ストライク傾斜面 3 9 の順に摺接するが、そのとき、錠ボルト 2 1 が、凹溝 4 3 , 4 3 以外の側板傾斜面 3 7 a , 3 7 b , 3 7 c , 3 7 d の表面、爪片 4 1 , 4 1 表面のみに接触し、接触面積が小さくなり、摺接摩擦が低減される。

【 0 0 1 0 】

請求項 3 記載のストライク穴調整構造は、請求項 2 記載のストライク穴調整構造であって、

前記ストライク穴 1 9 の前記爪片 4 1 , 4 1 と反対側の対向する辺部 1 9 b に、前記凹溝 4 3 , 4 3 に嵌合するブロック押さえ片 4 5 , 4 5 が延出形成されたことを特徴とする。

【 0 0 1 1 】

このストライク穴調整構造では、トロヨケ 5 の空間 1 7 に収容された調整ブロック 2 9 がトロヨケ空間 1 7 の開口側で爪片 4 1 , 4 1 と、対面のブロック押さえ片 4 5 , 4 5 によって当接され、段部 3 5 と共働して、調整ブロック 2 9 の脱落がより確実に規制される。

【 0 0 1 2 】

請求項 4 記載のストライク穴調整構造は、請求項 1 ~ 請求項 3 のいずれか 1 項記載のストライク穴調整構造であって、

前記側板傾斜面 3 7 a , 3 7 b , 3 7 c , 3 7 d が、前記ストライク板 7 の板厚 t の範囲内で形成されていることを特徴とする。

【 0 0 1 3 】

このストライク穴調整構造では、錠ボルト 2 1 の衝止面 3 1 a , 3 1 b , 3 1 c , 3 1 d となる調整ブロック 2 9 の側板部内壁面から、錠ボルト 2 1 が外れ始める側板傾斜面 3 7 a , 3 7 b , 3 7 c , 3 7 d の始まり位置（錠ボルト進退方向の高さ位置）が、厚みの異なる各側板部 3 3 a , 3 3 b , 3 3 c , 3 3 d においても共通の位置となる。

【 発明の効果 】

【 0 0 1 4 】

本発明に係る請求項 1 記載のストライク穴調整構造によれば、トロヨケに嵌入する調整ブロックのそれぞれの側板部板厚を異なる厚みで形成し、ストライク穴から表出する各側板部の端面に側板傾斜面を形成し、ストライク穴のガイド片側の辺部に側板傾斜面に接続するストライク傾斜面を形成したので、トロヨケ、ストライク板、調整ブロックの少ない部品で構成でき、調整ブロックをトロヨケに対して向きを変えて入れ替えるのみで、扉のガタツキを容易に防止でき、しかも、調整ネジなどを使用せず、ネジ類が表出せずに見栄えがよく、開扉時には、錠ボルト側部が樹脂製調整ブロックの側板傾斜面に当たった後、ストライク傾斜面に移り、引っ掛かりのないスムーズな開扉を実現できる。

【 0 0 1 5 】

請求項 2 記載のストライク穴調整構造によれば、ストライク傾斜面を、ストライク穴の辺部に突設した複数の爪片に形成し、爪片のそれぞれを側板傾斜面の凹溝に嵌合したので、開扉時、錠ボルトが調整ブロックの内方から退出する際、側板傾斜面、ストライク傾斜面の順に摺接し、凹溝以外の側板傾斜面、爪片表面のみに錠ボルトが接触し、接触面積が小さく、摺接摩擦が減って、引っ掛かりがより生じ難くなり、スムーズな開扉が可能となる。

【 0 0 1 6 】

請求項 3 記載のストライク穴調整構造によれば、ストライク穴の対向辺部のそれぞれに、爪片とブロック押さえ片を設けたので、トロヨケの空間に収容された調整ブロックがト

10

20

30

40

50

口ヨケ空間の開口側で爪片と、対面のブロック押さえ片にて当接され、段部と共働して、調整ブロックをより確実に脱落規制してトロヨケ内に保持できる。

【 0 0 1 7 】

請求項 4 記載のストライク穴調整構造によれば、側板傾斜面を、ストライク板の板厚の範囲内で形成したので、錠ボルト側部の衝止面となる調整ブロックの側板部内壁面から、錠ボルトが外れ始める側板傾斜面の始まり位置が、厚みの異なる各側板部で共通の位置となる。これにより、厚みの異なる任意の側板部を衝止側に配置した場合であっても、錠ボルトの係止解除が始まる距離を同一にし、操作レバーの開操作角度を一定にできる。

【 発明を実施するための最良の形態 】

【 0 0 1 8 】

10

以下、本発明に係るストライク穴調整構造の好適な実施の形態を図面を参照して詳細に説明する。

図 1 は本発明に係るストライク穴調整構造を備えた非開閉体の横断面図、図 2 は図 1 に示したストライク穴調整構造の分解斜視図である。

扉 1 が取り付けられる非開閉体である開口枠の縦の枠 3 にはトロヨケ 5 を覆う金属製のストライク板 7 が固定される。ストライク板 7 は、固定孔 9 , 9 に挿通されたビス 1 1 , 1 1 が、トロヨケ 5 の上下鉤部 1 3 , 1 3 に穿設された固定孔 1 5 , 1 5 に貫通して縦の枠 3 に固定される。

【 0 0 1 9 】

20

トロヨケ 5 は、一面が開口する四角箱状の空間 1 7 を有し縦の枠 3 に埋設される。ストライク板 7 には矩形状のストライク穴 1 9 が形成され、ストライク穴 1 9 はトロヨケ 5 の空間 1 7 を表出する。ストライク穴 1 9 には、図 1 に示す扉 1 の木口 1 a から突出される錠ボルト 2 1 が進入する。本実施の形態に係るストライク穴調整構造は、このストライク板 7 をカバー部材として有することで主要部が覆われる。錠ボルト 2 1 には係止面 2 1 a と傾斜面 2 1 b が形成され、係止面 2 1 a は後述する調整ブロックの衝止面に当接する。

【 0 0 2 0 】

ストライク板 7 の縦辺部には R 曲げされたボルトガイド片 2 3 が延出形成され、R 曲げ部 2 3 は錠ボルト 2 1 の傾斜面 2 1 b と衝接する。ストライク板 7 のストライク穴 1 9 には後述する調整ブロックの一部分が図 1 に示すように僅かに表出する。

【 0 0 2 1 】

30

縦の枠 3 には戸当たり 2 5 が形成され、戸当たり 2 5 はガスケット 2 7 を有する。扉 1 は、一方の面 1 b の周縁がこのガスケット 2 7 を介して戸当たり 2 5 に当たる。扉 1 は、突出した錠ボルト 2 1 がストライク穴 1 9 に進入して、係止面 2 1 a が調整ブロック 2 9 の衝止面 3 1 に当接することで、ガスケット 2 7 に接触或いはガスケット 2 7 を圧縮して閉止される。

【 0 0 2 2 】

図 3 は図 1 に示した調整ブロックの異なる衝止高さ位置のバリエーションを (a) ~ (d) に表した説明図である。

調整ブロック 2 9 は、トロヨケ 5 の空間 1 7 に嵌入する外形状で、樹脂材料にて角筒状に一体形成される。調整ブロック 2 9 は、軸線方向一端側における平行な一対の側板部 3 3 a , 3 3 b と軸線方向他端側における平行な一対の側板部 3 3 c , 3 3 d の板厚とがそれぞれ異なる厚み $T a$, $T b$, $T c$, $T d$ 、すなわち各側板部 3 3 a , 3 3 b , 3 3 c , 3 3 d がそれぞれ異なり 4 つの厚さとなって $T a > T d > T c > T b$ で形成される。衝止面 3 1 は、各側板部 3 3 a , 3 3 b , 3 3 c , 3 3 d で、異なる位置の衝止面 3 1 a , 3 1 b , 3 1 c , 3 1 d となる。

40

【 0 0 2 3 】

すなわち、調整ブロック 2 9 は、左右反転し、また、挿入方向を表裏反転して、トロヨケ 5 に対し向きを変えて入れ替え嵌合することで、衝止面 3 1 を異なる 4 種類の衝止面 3 1 a , 3 1 b , 3 1 c , 3 1 d に設定できるようになっている。

【 0 0 2 4 】

50

調整ブロック 29 の軸線方向両端の周縁には段部 35 が形成され、段部 35 はストライク穴 19 の内周に嵌入するとともにストライク板 7 の厚み t (図 1 参照) より小さい高さ h に設定されている。

【0025】

図 4 は異なる側板傾斜面が使用されたバリエーションを (a) ~ (d) に表した説明図である。

ストライク穴 19 から表出する側板部 33a, 33b, 33c, 33d の端面には側板傾斜面 37a, 37b, 37c, 37d が形成され、側板傾斜面 37a, 37b, 37c, 37d は調整ブロック 29 の内側へ下る傾斜面となる。また、ストライク穴 19 のボルトガイド片 23 側の辺部にはストライク傾斜面 39 が形成され、ストライク傾斜面 39 は側板傾斜面 37a, 37b, 37c, 37d に接続して調整ブロック 29 の内側へ下る傾斜面となる。

【0026】

本実施の形態において、ストライク傾斜面 39 は、ストライク穴 19 のボルトガイド片 23 側の図 2 に示す辺部 19a に突設された複数の爪片 41, 41 の表面に形成されている。これら爪片 41, 41 は、側板傾斜面 37a, 37b, 37c, 37d に形成された図 2 に示す複数の凹溝 43, 43 に嵌合される。

【0027】

開扉時、錠ボルト 21 が調整ブロック 29 の内方から退出する際、側板傾斜面 37a, 37b, 37c, 37d、ストライク傾斜面 39 の順に摺接するが、そのとき、錠ボルト 21 が、凹溝 43, 43 以外の側板傾斜面 37a, 37b, 37c, 37d の表面、爪片 41, 41 の表面のみに接触し、接触面積が小さくなり、摺接摩擦が低減される。これにより、摺接摩擦が減って、引っ掛かりがより生じ難くなり、スムーズな開扉が可能となっている。

【0028】

ストライク穴 19 の爪片 41, 41 と反対側の対向する辺部 19b にはブロック押さえ片 45, 45 が形成され、ブロック押さえ片 45, 45 は凹溝 43, 43 に嵌合する。ブロック押さえ片 45, 45 が設けられることで、トロヨケ 5 の空間 17 に収容された調整ブロック 29 は、爪片 41, 41 と対面のブロック押さえ片 45, 45 とによって当接され、段部 35 と共働して、脱落がより確実に規制されるようになっている。

【0029】

また、側板傾斜面 37a, 37b, 37c, 37d は、図 4 に示すように、ストライク板 7 の板厚 t の範囲内で形成されている。錠ボルト 21 の衝止面 31a, 31b, 31c, 31d となる調整ブロック 29 の側板部内壁面から、錠ボルト 21 が外れ始める側板傾斜面 37a, 37b, 37c, 37d の始まり位置 (錠ボルト進退方向の高さ位置) が、厚みの異なる各側板部 33a, 33b, 33c, 33d においても共通の位置となる。これにより、厚みの異なる任意の側板部 33a, 33b, 33c, 33d を衝止側に配置した場合であっても、錠ボルト 21 の係止解除が始まる距離を同一にでき、操作レバー (不図示) の開操作角度を一定にできるようになされている。

【0030】

次に、上記のように構成されたストライク穴調整構造の作用を説明する。

図 5 は図 4 (b) の側板傾斜面を有する側板部に錠ボルトが当接したストライク穴調整構造の横断面図である。

ストライク穴調整構造では、トロヨケ 5 の空間 17 に、調整ブロック 29 を種々の向きで嵌入することにより、衝止面 31a, 31b, 31c, 31d を変位させることができる。これにより、調整用のねじや、ドライバ等の工具を不要にして、錠ボルト 21 に対する衝止面 31a, 31b, 31c, 31d の扉厚み方向の位置を容易に調整でき、閉扉状態時における扉 1 のガタツキを無くすることができる。

【0031】

例えば、図 1 に示す側板部 33a を衝止面 31a とする向きでは、図 3 (a) に示すよ

10

20

30

40

50

うに、トロヨケ 5 の内壁から衝止面 3 1 a までの寸法を、T a に設定することができる。また、図 5 に示すように、側板部 3 3 b を衝止面 3 1 b とする向きでは、図 3 (b) に示すように、トロヨケ 5 の内壁から衝止面 3 1 b までの寸法を、T b に設定することができる。

【 0 0 3 2 】

このように、ストライク穴調整構造では、トロヨケ 5、ストライク板 7、調整ブロック 2 9 の少ない部品で構成され、調整ブロック 2 9 がトロヨケ 5 に姿勢を変えて入れ替えられることで、錠ボルト 2 1 の衝止面 3 1 a、3 1 b、3 1 c、3 1 d となる側板部 3 3 a、3 3 b、3 3 c、3 3 d の内面位置が種々に変位可能となる。また、開扉時には、錠ボルト 2 1 が樹脂製調整ブロック 2 9 の側板傾斜面 3 7 a、3 7 b、3 7 c、3 7 d に当たった後、ストライク傾斜面 3 9 に乗り移る。つまり、ボルト通過道の最初は異種材料同士の接触となる。

10

【 0 0 3 3 】

したがって、上記のストライク穴調整構造によれば、調整ブロック 2 9 をトロヨケ 5 に入れ替えるのみで、扉 1 のガタツキを容易に防止でき、しかも、調整ネジなどのネジ類が表出せずに見栄えがよく、開扉時には、錠ボルト側部が樹脂製調整ブロック 2 9 の側板傾斜面 3 7 a、3 7 b、3 7 c、3 7 d に当たった後、ストライク傾斜面 3 9 に乗り移るので、すなわち、錠ボルト 2 1 をトロヨケ空間 1 7 内へ導くための金属製のストライク板 7 とトロヨケ空間 1 7 となる調整ブロック 2 9 内から退出する際のこの樹脂製の調整ブロック 2 9 とが異なる素材で構成されたことで、その境目となる部分を端面同士で突き合わせて構成するのではなく、略櫛歯形状を互いに向かい合わせて組み合わせるような構成とし、かつ、表面となる部分を、互いに落ち込むように形成することで、側方視で、小さな凹部を中途に有するものの略連続した面となり、両部材 7、2 9 の斜面上を移動する錠ボルト 2 1 先端は、スムーズに通過でき、引っ掛かりのないスムーズな開扉を実現できる。

20

【 0 0 3 4 】

また、扉 1 の開放時に、ストライク板 7 の表面やトロヨケ 5 の空間 1 7 に、調整ネジや、その工具係着部が表出せず、見栄えを良くすることができる。また、調整部が悪戯されることも防止できる。さらに、調整部を悪意で操作して扉 1 にガタツキを生じさせることが困難となるので、防犯性も向上させることができる。また、衝止面 3 1 a、3 1 b、3 1 c、3 1 d が単一ブロック体の調整ブロック 2 9 に形成されるので、錠ボルト 2 1 の衝止強度を高めることができ、これによっても防犯性を向上させることができる。

30

【 図面の簡単な説明 】

【 0 0 3 5 】

【 図 1 】 本発明に係るストライク穴調整構造を備えた非開閉体の横断面図である。

【 図 2 】 図 1 に示したストライク穴調整構造の分解斜視図である。

【 図 3 】 図 1 に示した調整ブロックの異なる衝止高さ位置のバリエーションを (a) ~ (d) に表した説明図である。

【 図 4 】 異なる側板傾斜面が使用されたバリエーションを (a) ~ (d) に表した説明図である。

【 図 5 】 図 4 (b) の側板傾斜面を有する側板部に錠ボルトが当接したストライク穴調整構造の横断面図である。

40

【 符号の説明 】

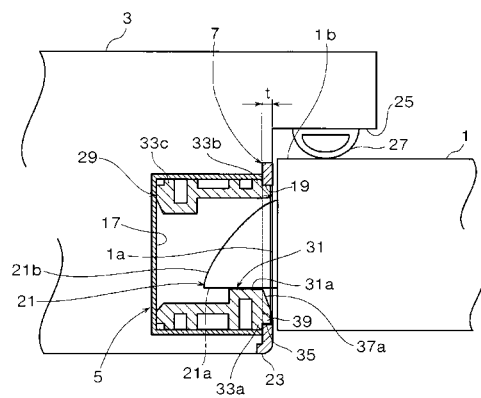
【 0 0 3 6 】

- 1 ... 扉
- 3 ... 非開閉体 (縦の枠)
- 5 ... トロヨケ
- 7 ... ストライク板
- 1 7 ... 空間
- 1 9 ... ストライク穴
- 1 9 a、1 9 b ... 辺部

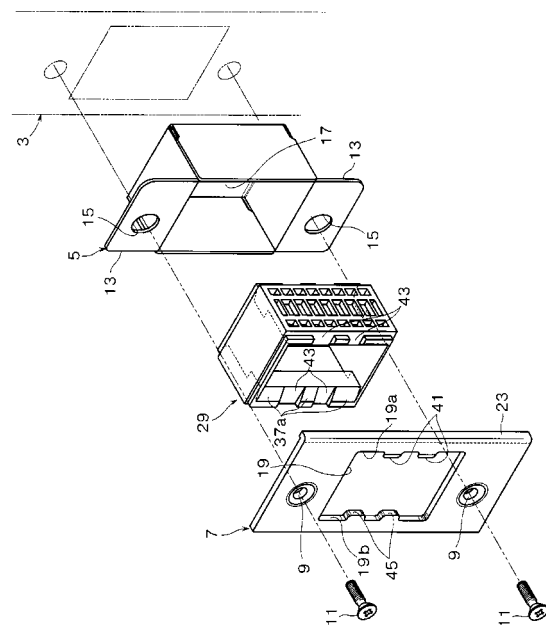
50

- 2 3 ... ボルトガイド片
 3 3 a , 3 3 b , 3 3 c , 3 3 d ... 側板部
 2 9 ... 調整ブロック
 3 5 ... 段部
 3 7 a , 3 7 b , 3 7 c , 3 7 d ... 側板傾斜面
 3 9 ... ストライク傾斜面
 4 1 ... 爪片
 4 3 ... 凹溝
 4 5 ... ブロック押さえ片
 h ... 厚みより小さい高さ
 t ... 厚み (板厚)

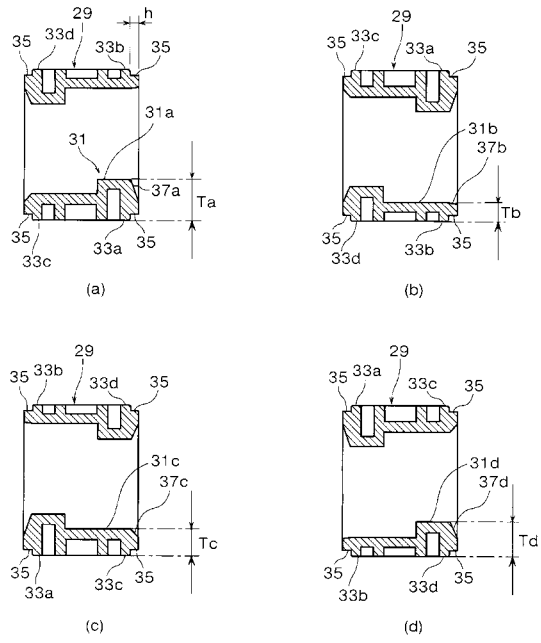
【図 1】



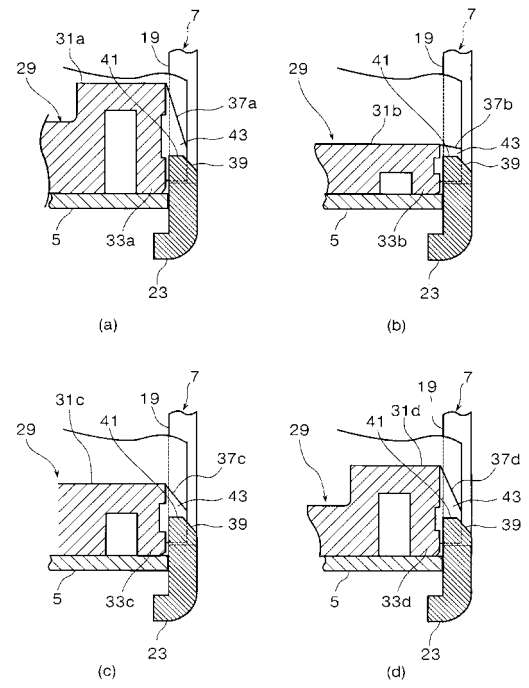
【図 2】



【図 3】



【図 4】



【図 5】

